

1 部

学習サポート

9～11月の各種申込み締切一覧

各種の申込みや提出の締切で主として9～11月のものを一覧にいたしました。通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着でお願いいたします。

■全学生に関連するもの

	提 出 物	締 切 日
10月科目修了試験	レポート・申込みハガキ	10月13日(木)
秋期スクーリングⅢ (10/29～11/13)	申込みハガキ	10月11日(火)
秋期スクーリングⅣ (11/19～11/27)	申込みハガキ	10月27日(木)
オンデマンド・スクーリング8	申込みメール	10月5日(水)正午
オンデマンド・スクーリング9	申込みメール	10月19日(水)正午
オンデマンド・スクーリング10	申込みメール	11月16日(水)正午
特講・社会福祉学7 履修登録・スクーリング申込み	履修登録用紙	9月30日(金)

	受 付 日
レポート (レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)	9月30日(金) 10月6日(木) 10月14日(金) 10月25日(火) 11月2日(水) 11月10日(木) 11月18日(金) 11月28日(月)

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締 切 日	備 考
◆社会福祉援助技術演習Ⅰ・★演習A スクーリング受講申込み 1 単位めレポート (スクーリング事前レポート)	12月受講希望者 →10月31日(月)	『レポート課題集 2011(1・2年次)』 「◆演習Ⅰ」 p. 125～131 「★演習A」 p. 190～194
◆社会福祉援助技術演習Ⅱ・★演習B 1 単位めレポート (スクーリング事前レポート)	10～11月受講希望者 →10月15日(土)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 「◆演習Ⅱ」 p. 54～58 「★演習B」 p. 119～125
◆社会福祉援助技術現場実習指導(事後) スクーリング受講申込み	11～1 月受講希望者 →9 月30日(金)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 「★実習指導B」 p. 138～142 「★演習C」 p. 126～133 「◆実習指導」 p. 59～64
◆社会福祉援助技術現場実習指導(事前) 課題1－① (実習計画案)	11/5 受講希望者 →10月14日(金)	
◆社会福祉援助技術現場実習指導(事後) 課題3－① (実習事後レポート)	10/22受講希望者 →9 月30日(金) 11/19受講希望者 →10月28日(金)	
★社会福祉援助技術実習指導B 課題3・4・5 (実習事後課題)	11/26受講希望者 →11月4日(金)	
★社会福祉援助技術実習指導B(B-3) + ★社会福祉援助技術演習C(C-2) スクーリング受講申込み	11月受講希望者 →9 月30日(金)	

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締 切 日	備 考
精神保健福祉援助演習 1 単位めレポート (スクーリング事前課題)	10～11月受講希望者 →10月15日(土)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 75～82
精神保健福祉援助実習(事後指導) スクーリング受講申込み	12～2月受講希望者 →9月30日(金) ※『試験・スクーリン グ情報ブック2011』 p. 12の10/3 申込 締切は誤りです。	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 83～97
精神保健福祉援助実習(事前指導) 課題1-① (実習計画案)	11/20受講希望者 →10月17日(月)	
精神保健福祉援助実習(事後指導) 課題3-② (実習事後レポート)	12/3・4受講希望者 →11月14日(月)	

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締 切 日	備 考
教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書・抗体検査 のコピー(・個人調査票のコ ピー)提出	12月実習開始者 →10月15日(土) 1月実習開始者 →11月15日(火)	※事前指導受講済者の み対象 ※抗体検査は数値だけ のものではなく、医 師による抗体を有す る旨の文言が入った ものであること。

■その他

●心理学実験

- ・心理学実験Ⅰ（9月東京受講者）実験レポート 10月5日(水)

●オンデマンド・スクーリング受講者

- ・オンデマンド8 試験レポート提出期限 11月16日(水)正午

●10月生

- ・科目等履修生継続申込締切 10月31日(月)

●卒業研究

- ・申込締切（9月卒業希望者） 10月5日(水)
- ・2回めガイダンス申込締切（福祉心理学科のみ） 11月4日(金)

高齢者福祉の学び

講師 後藤美恵子

世界のフロントランナーとしての使命

高齢者福祉を学ぶ前提として、高齢者という枠組から人を捉えるのか、人という枠組から高齢者を捉えるのか。また、高齢者問題なのか、高齢者にとっての社会問題なのか、そのことを思考することは社会福祉を学ぶ上では大切な問いだと思います。

高齢者が社会の中でどう位置づけられているのか、高齢者観はその社会において高齢者がおかれている状況を反映すると同時に、それを規定し、高齢者自身の自己概念や適応にも大きな影響を及ぼすと言われております。やがて誰にとっても平等に訪れる高齢期、わが国は世界の中で高齢化社会のフロントランナーとして位置づけられていることを誇る「社会」であることがフロントランナーとしての使命だと思います。子どもの頃に、大きくなったら…と夢を抱いていた時のような感情を、高齢者になったら…と高齢期に対しても同じように素直な思いを抱ける心が必要だと考えています。

高齢者が人口の全体の中で占める割合の多い社会を「高齢化社会」と呼びますが、「高齢化社会」は近代化の遺産です。近代化は産業化の進展を伴い、医療水準の向上、公衆衛生の進展、栄養水準の向上により豊かさを享受し寿命の伸長を招き、同時に、人口転換現象として「高齢化社会」を派生させます。高齢期には、さまざまな心身の変化や社会環境の変化が訪れます。それらに適応しながら、豊かな生活を送ることが人生にとっては大切なことだと思います。

寿命は生物学的要因と文化的要因の相互作用によって延長し、高齢化

は、医療や福祉、栄養などさまざまな技術や資金によって実現され、明らかに文化的要因の効果が大きいと言われています。そのような文化的効果が派生させた高齢化が人間の尊厳を脅かすというジレンマを引き起こしているとするれば…不思議な社会だと言えます。

65歳になったら高齢者に変身？

年齢規範「高齢者は何歳から？」、通常私たちは出生した日から何年経過したかを数える「暦年齢」で答えます。しかし、暦年齢が同じ65歳であっても、身体状況・能力、外見には個人差があり、これは年齢を重ねるにつれて顕著となり、成長期以降の人間は一律に老いるのではなく、それぞれの老いのプロセスを辿っていきます。客観的に「高齢者は何歳から」という疑問を模索しても、難問であり回答を導くことは永遠の課題だと言えます。人の主観的な年齢意識からこの疑問を模索すると、高齢者はステレオタイプ化された価値観、偏見が反映され、「エイジズム」を生み出します。近代化社会はエイジズムを生起させ、高齢者を組織的に否定的なイメージ形成の枠組に追いやる側面があります。

前近代化社会においては高齢者の数は少なく、長生きをすること自体が稀なこととして尊重されていました。伝統社会において、高齢者は「知恵者」でした。長い人生経験の結果、その共同体における重要な知恵を備えた権威ある存在として、人々から頼りにされ尊敬されていました。豊かな高齢期を送ることが万人の希望であり、望ましい老後の生き方を「サクセスフル・エイジング（幸福な老い）」とよび、そのためにはどのような生活の仕方が望まれるのかに関して、理論的検討がされ続けています。

年齢から高齢者を捉えることよりも、ひとりの人として理解をすることが自然なことであり大切なことだと言えます。

心の底から長生きしたいと思う社会の創造

人にとって、「長生きをすること」は自らの状態を予測できない中で想像を巡らせ不安と恐怖の要因となります。しかし、この不安と恐怖の要因である高齢期を生きている高齢者の内面を、私たちは本当に理解しているのでしょうか。高齢者が真に抱いている肯定的な側面を、私たちは本当に理解していると言えるのでしょうか。私たちは、高齢者自身の中に存在する肯定的な側面を理論的に、同時に事実としても明らかにしていくことが大切であると思います。高齢期「長生きすること」を肯定的に捉えられなければ、人類の発展をめざし裨益^{ひえき}してきた医療・福祉は撞着^{どうちゃく}に陥ってしまいます。

わが国のように健康寿命が延伸して、健康な長寿が実現することは人類の望みであると思います。平均寿命の伸長とは人生の延長です。単に寿命を延ばすことで終わる人生に意味をもつことはないと言えます。高齢期に安心して生きられる社会が保障されていることが高齢化社会の命題であり、高齢者一人ひとりにとっての「サクセスフル・エイジング」の追求が高齢者福祉を学ぶ基盤であり、高齢者の人生を保障するために法律や制度を学ぶことが大切であると思います。

「高齢者福祉」を学ぶことの意味をほんの少し思考してみると、学ぶことの楽しさに繋がるのでは…と思います。学ぶ人の心が「楽しい学び」を規定しているのかも…楽しい学びは関心や意欲を高め、学びを深めていくと思います。

参考文献

- 1) 長田久雄編著『老年学入門：学術的アプローチ』川島書店、1993.
- 2) 谷口幸一、佐藤眞一編著『エイジング心理学—老いについての理解と支援』北大路書房、2009.